緑の地球　第154号　　2013年11月15日発行　　年6回・奇数月15日発行　　発行：認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク
年間購読料2,000円（送料含む）定価300円　〒552-0012大阪市港区市岡1丁目4-24 住宅情報ビル5F　TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
郵便振替　00940-2-128465　E-MAIL：gentree＠s4.dion.ne.jp　URL（ホームページ）：http://homepage3.nifty.com/gentree/

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

大同県聚楽郷の采涼山プロジェクトで立派に育ったマツ。（2013年8月撮影）

Contents

●苗の植え方実験報告 …… Ｐ2
●冬期カンパのお願い …… Ｐ3
●黄土高原スタディツアー日誌から …… Ｐ4～5
●講演会『「ポスト改革開放」時代の中国』ご案内 … Ｐ7

2013.11
154

認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク

GENに参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『よみがえる森』を見る　☆書き損じハガキ・古切手を集めて送るetc.　　★あなたのご参加を待っています！

苗の植え方実験

ビニールを取り除くと２年目の成長が段違いに良くなる

前中　久行（GEN 代表）

前中久行代表が 2012 年より緑の地球環境センターの一角でマツ苗の植え方の実験をおこなっています。今回はその観測の結果をご報告します。

2012 年春ツアーの村での植樹の時に中国側から「苗はビニール袋のまま埋める」と説明されました。その村だけでなく他でも「ビニール袋は破るな」のようです。ビニールは水を通さないのでどう考えても取り除くべきと思うのですが、ビニール袋の穴から根が出てくるとかビニールがかってに破れるとか説明されます。

そこで、ビニール袋のまま植えた場合にどうなるか実験を始めました。1年目の経過についてはすでに紹介しています（GEN 会報 146 号、147 号）が、2 年間の結果概要です。

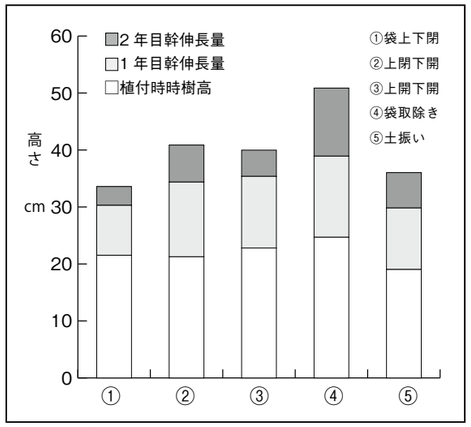
実験場所は緑の地球環境センターです。植え方として、①ビニール袋そのままで上端のビニールを重ねて閉じる ②袋の底を切り開き上端は重ねて閉じる ③袋の底を切り開き上端はめくって開ける ④土を残してビニールは全て取り除く ⑤土を落として裸根にする の５処理を設けました。アブラマツをそれぞれ 13 本植えました。植え付け直後に一度だけ十分に灌水しました。実験開始は 2012 年４月末、その後の測定は 2012 年８月末と 2013 年８月末です。

２年間に枯れたのはそれぞれ 13 本中、④で動物に喰われた１本、⑤で立枯れ１本＋動物１本です。①のビニール袋のまま埋めた場合も枯れたものはありません。いずれも活着率が高く、（期待に反して）差はありませんでした。この２年間は比較的雨が多かったことに留意が必要ですが、ビニール袋のまま即枯死ではないようです。幹の成長について図にまとめました。植え付け時の樹高に、１年目２年目の主幹の伸長量を上積みして示しています。それぞれの測定時期に生存しているものについての平均です。ランダムに割り振ったのですが植え付け時の樹高そのものに多少の差があるので注意してください。

１年目の幹伸長量は、②③④はその他よりも大きくこれら相互間にはほとんど差がありません。①が最も小さくこれらの 70% に留まっています。幹の伸長量は、その前年の生育条件が関連するといわれています。これらの苗の場合は苗圃で十分に灌水されて充実している状態で、実験開始直後１ヶ月半ほどの間に１年目の幹の伸長が完了しているので処理の違いが反映しているとは必ずしもいえません。しかし、２年目については、④で他の２倍以上の伸長量がみられ、①の伸長量が他よりも小さくなっています。２年目は１年目よりも処理による差がより大きく、２年目にして処理による違いが顕著になったといえます。①②③とも２年目の伸長量の方が１年目の 50% よりも小さくなっています。これは十分に灌水される苗圃から乾燥する現地に植え出されたためでしょう。いっぽうビニールが存在していない場合④は 85% 程度、⑤は 60%程度に留まっています。ビニール袋を破らないというのは根鉢の土が壊れることを懸念していると思われますが、この実験（新芽の伸びる前の適期に植えたことはあるにしても）に関しては①は根鉢を崩し土を振るい落とした⑤よりもむしろ成長が悪くなっています。

２年間でみるとビニールを完全に取去り根土を保存した場合の成長が他を圧倒しています。やはり「ビニール袋は取り除く」が正解です。

根を掘り上げて、根とビニール袋がどのような状態になっているのか観察したいのですが、高見さんがもう１年やろうというのでそのままおいてきました。



マツ苗のビニール袋の取り扱いと植付後の幹伸長量の関係

運営懇談会にご参加ください

今年も運営懇談会を開催します。GEN の今後の活動について議論する場として 2009 年から続いています。GEN の会員はどなたでも参加できます。新メンバーも歓迎です。どうぞご参加ください。

【東京会場】

○日時：11 月 30 日（土）15 時 30 分～17 時 30 分（13 時～ 15 時まで関東ブランチ月例会をおこないます）

○会場：立教大学池袋キャンパス５号館１階　第１・２会議室

（各線池袋駅西口から７分）

【大阪会場】

○日時：12 月７日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

○会場：大阪市総合生涯学習センター（大阪駅前第２ビル５階）

参加ご希望のかたは GEN 事務局までご連絡ください。

冬期カンパのお願い

夏期カンパにたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。おかげさまで上半期の収支をみた限りでは今年度の赤字は避けられそうな見込みが立ちました。ただし、下半期も上半期と同じぐらいのご寄付をいただけるという楽観的前提にたってのことです。

日中関係の改善は見込めそうもなく、中国の社会不安も心配です。それでも木を植え、守り育ててくれる大同の人たちや、困難ななか、それを支える大同事務所のスタッフたちを思えば、ここまで続けてきた活動を無に帰さないためにも、もうひとがんばりしなければいけません。

たびたびのお願いで恐縮ですが、ぜひみなさんのご協力をお願いします。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

【緑化基金】

大同での緑化協力にあてます。金額は自由です。ちなみに、現在アブラマツの苗木は１本 60 円、アンズの苗木は１本 100 円です。アブラマツは 1ha に 1,650 本、アンズは 1ha に 825 本植えます。82,500 円～ 99,000 円で、1ha 分の苗木を購入できます。

また、整地・植栽・１年間の管理費などを含めると、アブラマツ 10a の造林が 23,000 円でできます。

なお、緑化基金の 20%は事務管理費になります。

【運営資金】

事務所費、人件費、旅費・交通費など運営費にあてます。金額は自由です。

【おまかせカンパ】

用途を指定しない寄付です。その時どきで最も必要とされているところに使わせていただきます。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告時期以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金、運営資金、おまかせカンパと会費のうち１口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、2014 年１月１日現在大阪市在住のかたで 2013 年中に GEN に寄付をされたかたは大阪市税が控除されます。確定申告または市・府民税申告書提出が必要です。詳しくは GEN までお問い合わせください。

報告

絶好のキノコ日和　生駒山キノコ観察会

加藤　彰宏（GEN 会員）

10 月 19 日、栗栖敏浩さんの案内で奈良県生駒山キノコ観察会をおこないました。15 名が参加し、秋の山のなかでキノコ観察を楽しみました。

雨、止んだ！　さあ行こ！

宝山寺から山頂へは林間の舗装道ですが、両側には朽ちた落葉や枯枝が積もり、いろんな種類のキノコが見つかりました。そのたびに立ち止まっては名前や説明を聞きながらゆっくりゆっくり上りました。

落葉を掻き分けると、その下にも真っ白い菌糸が一面に広がっていました。普段はまったく気にもしなかった土の中ですが、栗栖先生から「枯れ葉や枯れ木をぼろぼろに消化してくれる菌類がいるので生物界の食物連鎖が回っているんです」と教えていただきました。

昼からは土の下り道でしたが、連日の雨で滑りやすく、足下に注意をしながらまたキノコを探しました。

初めて見たロクショウクサレキンの青緑色はほんとうに印象的でした。枯枝にべたーとへばりついていて苔かと思っていたのはニカワタケ。スッポンが首を伸ばしたようなスッポンタケ。「もやし」の匂いがするものもありました。チャワンダケ、ホウロクダケなどなどたくさん名前を教わりました。

下り道ではアケビも見つけ、みなで枝を引っ張ったり、傘で引っかけたりと、今日一番の盛り上がりでした。

生駒山はウォーキングにはよく来ていましたが、なぜかあまり好きな山ではありませんでした。でもこれからはちがう面にも目をやればまた楽しめる山だと思いました。

早朝まで雨が降っていたけれど、観察会のあいだだけはなんとか天気ももってくれ、たのしい観察会でした。参加者のみなさん、ありがとうございました。

助成が決まりました

●中国山西省で実施する緑化プロジェクトに日中緑化交流基金の助成 1,090 万円が決まりました。北京の水源であり、風砂の吹き出し口でもある桑干河流域の緑化に役立てます。

それぞれが感じた今の大同

黄土高原スタディツアー日誌から

2013 黄土高原スタディツアー（8/24 ～ 8/30、21 名）参加者の日誌から抜粋をご紹介します。前略・中略・後略した部分がありますが、その表記は省略させていただきました。学習院大学・学習院女子大学・立教大学のツアー参加者の感想もあわせて掲載します。

● 8 月 24 日（土）

飛行機から見た北京近くの田畑、緑が思っていたより鮮明で空気が澄んでいるのが予想外でした。空港から北京市内まで道路の両側に植えられた樹木が大きく育ち緑の美しい樹林帯となっていることも驚きでした。オリンピック前の木の棒を立てたような状態を思い出し、植物の成長の早さ、緑の大切さを感じました。空港への地下鉄工事、道路の植樹、いずれも性急な事業で、間にあうのかなと思うことができてしまう。それが中国なのかな。

天壇公園で散策中、1 人行方不明。心配で何とかできないかと思うが方法もなく北京駅へ。日本大使館を通じ連絡がとれたとの報に一同安心。（西村治）

● 8 月 25 日（日）

9 時半ごろに植物園の入り口に着いたが、そこから山道を 45 分かけて登った。管理棟で説明があり、その後記念の植樹をおこなう。マツを 20 本植えたが、穴を掘るグループ、松の苗木を下から運ぶグループ、また水を運ぶグループと手分けして作業をする。私は水を運んだが、細い山道を 4 往復してけっこう疲れた。

昼食はカップ麺、パン、ソーセージであったが、缶ビールが出たのでそれなりに満足。

午後は稜線目指して登山、途中高見さんより植物の説明を聞きながら登る。かなりきつい登山だったがなんとか頂上につくことができ、すばらしいながめを満喫できた。（金井章二）

● 8 月 26 日（月）

バスで上北泉村に向かう。村につくと、“熱烈歓迎日本友人来我村植樹”という横断幕が目に入った。横断幕の前には子どもたちが赤い布を振り、女性たちが扇子を持って踊っていた。中国の人は日本が嫌いだというイメージが強かったが、歓迎されているのがわかってとても嬉しかった。

農家で昼食をいただいているとき、私の行った家にはイーちゃん（シャオイー）という 4 才の女の子がいて、みなでかわいがった。シャオイーは明るくておませな子で、肉まんやビールを運んできてくれた。彼女はなぜか私についてくれ、写真を見せながら家族を紹介してくれた。帰るとき、彼女は私から離れなかったが、おじいちゃんに引きはがされてしまった。とてもなごりおしかった。（内田文菜）

● 8 月 27 日（火）

北魏時代の遺跡や北京へ電力を送る送電線、火山、トウモロコシやコーリャン畑などを見ながら走ること 2 時間足らずで西馬営村に到着し、植樹場所へ。だだっ広い草地に緑、赤、青、黄の旗が広い一画を示していた。まさかと思ったが、その一画全面が私たち 40 数名の活躍舞台であった。ここでも植付けかたの説明があったが、前中代表のお願いが通り、村側に育苗ポットのビニール袋を取り除くことが了承され、困っていた課題が 1 つ解決した！

水はタンク車で用意され、子どもたちが頑張ってくれた。大学生たちは GEN ツアー組よりもパワフルに作業をしてくれた。もちろんおじさんおばさんも頑張ったよ!!　こうして 48 本× 21 列＝ 1,000 本以上を植え終わった。

子どもたちとの楽しい交流のあと、16 時ごろに村を出発。天気予報は雨だったが、何とか持ちこたえた。（加藤彰宏）

● 8 月 28 日（水）

緑の地球環境センターの業務内容やビデオでの説明を受け、マツの植樹作業をおこなう。午前 1 時間、午後 1 時間半程度だったが、穴が掘られていたうえに深さも 30cm 程度で、参加者の多さや慣れもあって、およそ 4,000 本近く完了した模様である。自分としては、前中代表の「ビニール袋をはずし、ていねいに植えること」という言葉を守りがんばった。

夕方に采涼山プロジェクトの現地とカササギの森を見学。道すがら西日を受けたポプラの葉の裏が白く光り、まるで花が咲いているような景色を見た。

采涼山プロジェクトは GEN の協力をきっかけに地元で 230ha の土地に、また、カササギの森では約 600ha の土地に GEN 独自で植林事業をおこなっており、およそ 10 年以上経過し、赤茶けた黄土高原が緑色の森林に変わりつつある。大同市の緑化事業への積極性と GEN の努力、さらにカササギの森建設の日本の団体、個人の寄付など多くの人びとの強い意志のもとに成果があらわれてきている。（高木清晴）

● 8 月 30 日（金）

中国は 3 年ぶり、大同は 11 年ぶりだった。大同も北京も古い家屋がなくなり、高層のビルばかりになっていた。道路にごみがなく路面もきれいで、道の両側には大きく濃い緑の街路樹が木陰を提供していた。人びとの話しかたは穏やかな印象で、「けんか売ってる？」と言いたくなるような話しかたをする人は減ったように思う。農村は人が少なく、老人の姿ばかりで廃屋も多いと思った。オリンピックは町を変え、国を変えるんだなあと、すごいなあと思った。

北京から、誰よりも動き、走り回り、楽しい気分にしてくださった通訳の唐さん。安全だけではなく、快適と満足にまで気を配ってくださった大同事務所のスタッフ。わたしたちの活動を見守り、裏で絶えずサポートしてくれた活動拠点スタッフやバスドライバーさん。また会いたいと思う中国の人びとと会えたことが何よりもうれしかった。

隣の国に住む人は、隣の家に住む人と同じように、淡々と普通に、日常を暮らす人びとだった。家族や友人としゃべったり笑ったり、向き合う人を思いやる人びとだった。それをちゃんと実感できて、時代の流れのなかで変わったことと変わってないこととどちらもみることができて、来てよかった、今来てよかったと思った。（宮下利江）

学習院大学・学習院女子大学・立教大学ツアー感想

●普通の旅行では行くことができないような農村の風景を見たり、食べ物を食べたり、村の人と協力して植林したりと本当に濃い活動ができました。中国のことをもっと知りたくなりました。

●私たちが壊した環境を回復させるための活動に参加して「こんなに大変で時間のかかる作業なのか」とショックを受けました。よく耳にする「環境保護」の言葉が軽いスローガンではなく重い実践であると痛感しました。

●マツ苗を植える作業はたいへんでありながら、ともに汗をかき作業をする仲間との友情をはぐくむ時間でもありました。

●中学生のころから植林活動など自然に関わる仕事がしたいと思っていたので、これからの方向性を決めるひとつの機会となりました。

報告 中国黄土高原緑化ツアーに参加して

小堀　栄二（大阪市 RR 厚生会）

8 月 30 日～ 9 月 4 日の日程で大阪市 RR 厚生会のツアーが大同を訪問しました。今年で 3 回目の派遣、4 名が参加しました。

1975 年ごろ、大阪市在職中の私に、たまたま三重県伊賀町（現伊賀市）に 36 万坪の青少年キャンプ場を建設する仕事が回ってきた。そこは「室生・赤目・青山国定公園」の一種特別地域（禁伐）と、砂防保安林の規制のかかっている土地であった。そこで各専門家集団に呼びかけ生態調査に入ったのだが、当時の大阪市にはキノコの専門家がおらず、結局関西菌類談話会を紹介され、写真とキノコの縁ができてしまった。

以来退職後もキノコとの縁はつづき、今年 3 月には昨年の取材結果を「黄土高原を行く」と題し、日本菌学会で、中国における菌根菌の利用状況と GEN の活動の PR をさせていただたくことができた。今年は家内も昨年の私の写真を見てその気になったらしく同行することとなった。

北京空港から一路霊丘県のホテルに向かう。私は新しいレンズのテストを兼ね、車窓から移りゆく風景を写しまくり、6 時間の旅もそれほど疲れもせず、案外楽にホテルに到着した。

翌朝、南天門自然植物園に向かう。「あの頂上だ」と聞いた途端、カメラ 2 台とレンズ 3 本、三脚が肩に食い込み、花と風景のみの写真になってしまった。

9 月 1 日は昨年も訪ねた呉城村で昼食をし、黄土高原の一端を写す。昨年も感じたことだがここは四季住み込んで、環境の厳しさなど生活のあり方を内側から取材すべきだと感じた。

3 日は万人坑の参観をした。最近の世論調査では中国人特に漢民族に不快な念を持つ日本人が多くなっているが、戦前・戦後を知る 1931 年生まれの私には、心にこたえる風景だった。撮影しながら、この事実と 20 年前の調査時には「日本鬼子」と子どもが石を投げる真似をしたと聞いたとき、今回の「熱烈歓迎」までのギャップを埋めてこられた関係者の人生をかけた行為につくづく頭の下がる思いがした。挨拶のとき山あり谷ありと表現したが、昨今の政治を考えるとまた大きく右傾化した壁を見る感じがする。願わくば GEN の活動に水を差さないように祈るのみである。

午後北魏の都古城を見学する。3 ～ 4 世紀に栄えた国だ。夕方に復元されたシルエットの城壁を写すつもりが、青、赤、黄色と電飾でピカピカ。「何考えてんねん」が偽らざる感想。それと古城内の城壁より高い建物は撤去中、城外には高層住宅群の乱立。これはカメラマンとしては国の命令系統が読めて、面白かった。

緑の地球ネットワーク年会費……一般会員＝ 12,000 円・家族会員＝ 6,000 円・学生会員＝ 3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）＝ 1,000 円・団体会員＝ 12,000 円・賛助会員＝ 100,000 円◇会報購読のみ（年間）＝ 2,000 円

報告

GEN 関東ブランチ　宇久須収穫合宿報告

伊豆の壮大な大地を感じた３日間

佐藤　守信（GEN 会員）

11 月 1 日～ 3 日、静岡県西伊豆町の宇久須で GEN 関東ブランチ宇久須収穫合宿がおこなわれ、9 名が参加しました。カボチャ、サツマイモなどの収穫から地質の講演、伝統芸能までさまざまな秋の伊豆の魅力を堪能しました。

11 月 1 日から 3 日まで、西伊豆の宇久須で GEN 関東ブランチの収穫合宿が行われました。宇久須は修善寺からバスで 1 時間強の風光明媚な過疎地です。今回は大阪からも駆けつけ 9 名の参加でした。

初日はカネジョウで新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながらの結団式、話の花が咲き乱れました。

2 日目は関東ブランチ圃場でサトイモ、サツマイモなどの収穫。木箱 11 箱になりました。昼はさっそく収穫物をカレーに入れて皆でいただきました。

昼食後からは地元の方を交えて「伊豆が日本列島を一つにした」と地質の専門家美谷島氏が講演。その後、車に分乗して浮島などジオサイトを見学。巨大な柱状節理、断層などを目前にし壮観でした。沢田海岸では雲の切れ目から夕陽が顔を出し心安らぐ風景でした。

夕方は地元の出崎神社の宵宮行事に誘っていただき「なおらい」のお食事をいただきました。

最終日は午前 4 時に起床。暗い中、無形文化財となっている牛越神社の「人形三番叟」を見学しました。村の青年たちが総出でお囃子、人形操りなどを息が合った力強い調子で奉納しました。過疎の村でこのような素晴らしい伝統芸能が保存されていることに驚愕です。朝食後は素朴な子供たちの猿っこ踊り、婦人会による百歳音頭などを間近に見て、故郷を思い出し不覚にも落涙しました。

野菜の収穫に加え、壮大な伊豆の大地、宇久須伝統の秋祭を肌で感じることができ感動の連続の 3 日間でした。

宇久須のみなさま、企画していただいた藤原さん、上田先生、みなさまに心から感謝し御礼申し上げます。

GREEN なんでも勉強会

森に降りそそいだセシウムのゆくえ

福島の原発事故によって周囲に降りそそいだセシウム。福島県川内村での調査をもとに、そのゆくえに迫ります。地下水や川の水などへの影響は？　炭を使ったセシウム隔離作戦の展開などもお話しいただきます。

○日時：11 月 27 日（水）18 時 30 分～ 20 時 30 分
○講師：岡田直紀さん（京都大学大学院農学研究科准教授）
○場所：ひと・まち交流館京都（京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1（河原町五条下る東側）
tel.075-354-8719　fax.075-354-8712
市バス 4、17、205 系統「河原町正面」下車　京阪電車「清水五条」徒歩 8 分、地下鉄烏丸線「五条」徒歩 10 分
URL http://www.hitomachi-kyoto.jp）
○参加費：700 円（学生 300 円）
○定員：40 名
○問合せ・申込み：GEN 事務局まで

GEN 自然と親しむ会

無煙炭化器で炭を作ろう

恒例となりました無煙炭化器を使っての炭焼き。今回は焼き芋だけではなく、できあがった炭を使ってバーベキューに挑戦します。無煙炭化器を使ったことのないかた、簡単にできる炭焼きを体験してみませんか。炭を囲んでおいしく楽しいひとときをすごしましょう。

○日時：12 月 15 日（日）10 時～ 14 時ごろ
○場所：西宮市武庫川河原（JR 福知山線「武田尾」駅付近）
○集合：JR 福知山線「武田尾」駅前に 10 時
○参加費：200 円（保険料を含む）
○持ち物：バーベキューの食材を各自持参、飲み物、敷物、作業のできる服装、軍手、雨具、あればノコギリ
○定員：20 名
○問合せ・申込み：12 月 11 日までに GEN 事務局まで
※雨天中止

GEN 自然と親しむ会

里山の成り立ちを見に行こう

放置された里山の荒廃が問題視されていますが、能勢妙見山付近の里山は現在でも利用されている貴重な里山で、茶道で使われる高級炭「菊炭」の産地でも知られています。

森林総合研究所の大住克博さんの案内で里山を歩きます。人と自然とのつき合いかたやその成り立ちを見にいきませんか。

○日時：2014 年 1 月 26 日（日）10 時～ 15 時ごろ
○集合：能勢電鉄「妙見口」駅前に 10 時
○講師：大住克博さん（森林総合研究所関西支所）
○参加費：700 円（保険料を含む）
○持ち物：飲み物、弁当、雨具、歩きやすい服装・靴
○定員：30 名
○問合せ・申込み：1 月 22 日までに GEN 事務局まで

「ポスト改革開放」時代の中国
－習近平・李克強政権はどう動く

長年中国報道にかかわり、『報道ステーション』のコメンテーターも務めた加藤千洋さん。今回は貧困と格差、汚職腐敗、環境問題など高度成長のひずみ、ゆがみがいよいよ顕著化してきた中国で習近平体制が直面する課題についてお話しいただきます。ぜひご参加ください。

○日時：2 月 26 日（水）18 時 30 分～ 20 時 30 分
○講師：加藤千洋さん（同志社大学大学院教授、元朝日新聞編集委員）
○場所：大阪市立総合生涯学習センター第 1 研修室（大阪駅前第 2 ビル 5 階）
○参加費：700 円（学生 300 円）
○問合せ・申込み：GEN 事務局までご連絡ください。

黄土高原史話〈65〉

北魏「狩猟図」の語ること

谷口　義介（GEN 会員）

GEN の緑化協力の拠点＝地球環境林センターは、2010 年から大同市街の北東、漢と匈奴の古戦場白登山を仰ぎ見る大同県周士鎮に移ったが、それまでは市の南部の南郊区に置かれていた。敷地内の場所によっては、漢代以降の土器や瓦が入れ食い状態で出土したこと、すでにふれたとおりです。

さて、ここより東に向かって数 km 先に紅旗村なる地区がある。市街からいうと南へ 3km、御河（如渾水）と十里河（武周川）がぶつかる少し手前が小高い丘になっていて、地元では張女墳と呼んでいる。1987 年、電気溶接器材工場の拡張工事中、古い墓地が見つかって、翌 88 年、山西省考古研と大同市博物館が合同で調査したところ、167 座にものぼる北魏平城時代の墓葬群が明らかに。竪穴墓 17・竪井式墓道土洞墓 54・傾斜式墓道土洞墓 95 など。

遺物類も多種・豊富で、日常用の灰胎暗紋土器のほか、ペルシャのガラス器・銀器などの珍宝も。なかでも注目は木棺の残片 4 点で、公表された 1 点には美しい彩絵が描かれていた。

その残棺蓋は 150 × 45cm の 2 枚の板からできていて、黄色の表面に赤・緑・黒の 3 色。蓋の中心部には、頂の丸い連山を遠景に、木や草を近景として、ヒツジ・クマ・トラと狩猟の騎馬人物が配される。樹木は二重線で樹幹と枝を画き、細い線と緑彩で樹冠を描く。武者 5 人、みな裾が膝までとどく長上着、長いズボンにベルトをしめ、頭に風帽をかぶった、北方騎馬族ふうの出で立ちです。右側の二人は弓を張りつつ馬を馳せ、中央の一人が放った矢がヒツジに命中。左側では馬から下り、樹上のクマを狙っている様子。また中央では一人の騎士が長槍でトラの頭を刺している。緊張した狩り場のさまを活写した、躍動感あふれる画面といえるでしょう。

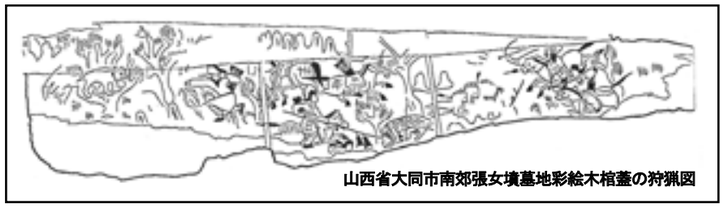
ところで、現在の内モンゴル自治区東部、大興安嶺の西麓で狩猟・遊牧していた鮮卑拓抜部は、次第に南西に移動して、ついには今の山西省北部の大同に定着、北魏を建国。生産の基盤を牧畜から農耕にシフトするが、以後も王族・武人らは森林や原野に出かけて狩猟を行ない、皇帝主導のものだけでも、第 1 代道武帝―2 回、第 2 代明元帝―13 回、第 3 代太武帝―16 回、第 4 代文成帝―9 回、第 5 代献文帝―5 回。それにともない、皇帝狩猟の侍従官として猟部が道武帝期に置かれており、献文帝期には狩猟を管理する羽猟諸曹も設置された。

もちろん狩猟活動は、単なる娯楽や獣肉の獲得が目的でなく、武技をみがく軍事演習を兼ねており、鮮卑族ほんらいの文化を維持する役割をもつ。だから、『魏書』巻 1「序記」に、始祖神話を語って、

> 初め聖武帝、かつて数万騎を率いて山沢に田す。……既に至り、美婦人を見るに、侍衛甚だ盛んなり。帝、異としてこれに問ふ。対へて曰く、「我は天女なり。命を受けて相ひ偶せん」と。遂に同に寝宿す。

とあり、かくして生れたのが英雄力微であったというごとく、王室の祖先が天女から誕生したのを狩猟の場に設定しているのだ。

ところが、第 6 代孝文帝の時代には狩猟行事が見えなくなり、帝自身は幼児より狩りの訓練を受けてその技術も優れていたが、「年十五に至り、すなはちまた殺生せず、射猟の事ことごとく止む」（『魏書』高祖紀下）と。それって、鮮卑アイデンティティーの否定では？



山西省大同市南郊張女墳墓地彩絵木棺蓋の狩猟図

予告

2014 春の黄土高原ワーキングツアー

春は大同で村の人たちといっしょに木を植える旅に出ませんか。

○日程：2014 年 4 月 5 日（土）～ 11 日（金）
○訪問地：中国山西省大同市（北京経由）
○ 費 用： 一 般 176,000 円、 学 生 156,000 円（関西空港発着）予定。変更になる場合があります。
※別途付随費用あり。GEN 年会費は別途。
○定員：30 名程度
○最少催行人員：12 名
詳細は 1 月号でご案内します。

情報ひろば いろんなかたち

＊当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
＊当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

第20期自然大学 受講生募集

自然との共生とは？生物多様性とは？生態系とは？考えるヒントがここにあります。

●期間：2014年4月13日～2015年3月8日（全14回）
●募集生徒数：50人（18歳以上。先着順）
●受講料：35,000円（交通費、宿泊費、野外実習経費を除く）
●申込み方法：氏名（ふりがな）、生年月日、性別、職業、住所、電話番号、FAX番号、趣味・特技を明記の上下記までE-mail、FAX、郵便でお申し込みください。
●主催・申込先：NPO法人自然と緑（〒537-0025）大阪市東成区中道3-2-34　Tel. 06-6978-5060　Fax. 06-6978-5061 E-mail:sizen_mi@osb.att.ne.jp
●日程：4月13日／4月20日／5月11日／5月18日／6月8日／6月29日／7月13日／9月7日／10月18日／11月16日／12月14日／2015年1月18日／2月8日または15日／3月8日
●講師：只木良也氏（名古屋大学名誉教授）小川眞氏（大阪工業大学客員教授）伊藤孝美氏（自然大学教文部長）ほか

2014年度（第12期） 自然環境市民大学 受講生募集中

自然環境の保全について学び、いっしょに取り組んでみませんか。

●期間：2014年4月9日～2015年3月11日（38回。原則水曜日の10時～15時30分ごろ、一部他曜日もあり）
●受講料：55,000円（分割納入も可）
●定員：30名（先着順）
●申込み方法：氏名（よみがな）／年齢／住所／電話／FAX／E-mail／保全協会の会員の是非／携帯電話番号を明記して郵送、FAX、またはE-mailで下記まで
●主催・申込先：公益社団法人大阪自然環境保全協会　市民大学係（〒530-0041大阪市北区天神橋1-9-13ハイム天神202号　Tel. 06-6242-8720　Fax. 06-6681-8103　E-mail:office@nature.or.jp　URL http://www.nature.or.jp）
●講師：高田直俊氏（大阪市立大学名誉教授）伊藤孝美氏（大阪府農業大学校講師）佐藤治雄氏（大阪府立大学名誉教授）ほか

おいしいポンカンできました

今年もおいしいポンカンができました。お歳暮に、贈答に、いかがでしょうか。

★甲浦ポンカン（低農薬・動物性有機肥料のみ使用）

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A	2L/3L	5kg	30個前後	4,000円
B	2L/3L	3kg	20〃	2,600円
C	L	5kg	35〃	3,500円

【普通箱入り】

D	2L/3L	5kg	30〃	3,700円
E	2L/3L	3kg	20〃	2,300円
F	L	5kg	35〃	3,200円

【家庭用】

G		5kg	33〃	2,600円
ゆず酢		4合瓶2本入り		4,000円

※出荷：12月10日～2月下旬
※送料別途。20kgまで関西630円、関東・甲信越840円。
★ご注文は
〒781-7412高知県安芸郡東洋町河内203　田中農園　田中隆一さん（Tel./Fax. 0887-29-2500 E-mail:tanakan@quolia.ne.jp）
※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。